

# 交通系ICカードを教材とした 安全科の授業実践

---

大阪教育大学附属池田小学校

池住 祐亮

# 問題の背景

---

## <実情>

本校の登下校する際に公共交通機関を利用する機会があり、交通系ICカードを利用している児童が多い。

今回の授業実践を行った2年生の学級でも32人中30名が交通系ICカードの利用経験がある。

## <交通系ICカードに対する児童の意識>

○児童は交通系ICカードの利便性を理解している。

しかし **危険性**を意識していない。

## <指導者のねがい>

本実践を通して交通系ICカードを乱雑に扱うことで様々な危険性があることに2年生なりに気づけるようにしていきたい。

# 授業実践について(導入)

ピタパはベリリ!?

1か月

みのおいけだ

年い

こども

名前

お金にたい

きふ

ピタパベリリ!

タッチ

いしん

かたは回

わすれない

かたに

つかわる

かたがえ

か

<児童の学習活動>  
交通系ICカードのPiTaPaと切符を比較する。

<児童の気づき>  
切符を買うには時間がかかるが、PiTaPaはかからない。  
PiTaPaをよくみると「名前」「年齢」などが書いている。

# 授業実践について(展開①)

<学習を促す手立て>  
かばんからICカードをぶら  
さげている写真を提示する  
ことで、危険性を予測でき  
るようにした。



カバンからピタパが  
ぶらさがっている

足にひっかいてける

お金がぶりにまわっているから

お金みたいなもの

ぬすまれるかも 名前 年い

しうべられる ← こじんじょうほう  
ひとりの時に...

<学習活動>

交通系ICカードの持つ危険性  
について意見を出し合う。

<児童の気づき>

もし落としたら個人情報情報がもれ  
てしまうかもしれない。  
ぶらさげていたら足にひっかけ  
てつまづくかもしれない。

# 授業実践について(展開②)

1/7 ピタパはベリリ!?  
←1か月

名前 →  
お金にたい

みのお いけだ  
1180円

| きふ     | ピタ  |
|--------|-----|
| 入れる    | タッチ |
| 時間かかる  | いし  |
| のりたひたう | かた  |
|        | やす  |

**<学習活動>**  
今後、交通系ICカードをどのように扱うか自分の考えを書く。

**<児童の考え>**  
必要のないときはかばんのポケットの中にいれておく。  
改札以外ではPiTaPaをさわらないようにする。

かみかえ  
かばんのポケットに入れる。  
かいさついかいピタパを  
さわらない。おれる!?  
パスケースをにぎる  
テープをつける

いから  
いなもの  
前、年い  
んじょうほう



# 児童のふり返し①

自分のかんがえ

もしピタパがかばんからたれていたらなおす。  
ピタパをふりまわしたらまた"うん"とやる。  
るから、"うん"とやる。かばんからたれていたらなおす。  
かばんからたれていたらなおす。

ふりかえり

わたしはピタパのことがきになった。かばんからたれていたらなおす。  
でも、さういふことをしてピタパをふりまわしたらまた"うん"とやる。  
いいな。た"うん"と思。かばんからたれていたらなおす。  
かばんからたれていたらなおす。

PiTaPaがかばんからたれていたらなおすことや、改札以外ではPiTaPaを触らないことを書いている。  
また、今までPiTaPaのことを考えたことがなかったが本実践を通して大切さに気づいたとふりかえっている。

# 児童のふり返し②

自分のかんがえ

ピタパをおとしたりなくしたりすると、  
いい人がいてくれた場合は、こうして  
もどけてくれるかもしれないけど、わるい人の  
場合は、サギをするかもしれない。  
ピタパがなくなると、さかたにいたるかもしれない。  
ないわね、い時は、さかたにいたるかもしれない。  
なくさずとも。

ふりかえり

ピタパをなくすと、いろいろなことがおこるが、  
ピタパを大事にして、なくさないよ  
うにしたい。いいけど、いいことがおこる  
てわかった。

本児童は「PiTaPaを落したり、失くしたりすると～」と考えることができ、  
おり危険予測の力を働かせて自分の考えを書こうとしている。

# 成果と課題

---

## <成果>

身近な存在であるPiTaPaの危険性を考えるきっかけになった。

交通系ICカードであるPiTaPaをカバンからぶらさげている児童が多いという実態から、考えれる危険性を予測することができた。

キャッシュレスや個人情報について考えるきっかけになった。中学年や高学年でより深くキャッシュレス教育をする必要性があると思う。

## <課題>

児童の中で、挙げられた危険性として「PiTaPaをぶらさげていることでころんでしまう」と「個人情報が流失する」という危険性があった。どちらの内容をより児童に理解させていくのかという点が、授業者の中で不明確になっていた。